

●令和7年度当初の値

圏域内の居宅介護支援事業所数	8
主任介護支援専門員の人数	36
介護支援専門員の数	16

●令和7年度のケアプラン総数

基準月	ケアプラン作成数	直持ちプラン件数	委託プラン件数	委託率（％）	高齢者数／人口	高齢化率
令和7年3月	203	8	195	96.1%	4991人/17018人	29.3
令和8年3月					／	

事業	事業の内容	門真市目標値		前年度実績		活動計画		上半期実績(4月～8月分)		当該年度実績		自己評価	前年度の反省を踏まえた当該年度の目標	上半期の活動内容のまとめと課題(4月～8月分)	上半期実績に対する市の講評
		回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数				
ケアマネ包括的継続的業務	事例検討会・研修会（法定外研修含む）	2		10	655	5	320	1	14				介護支援専門員が円滑に業務を行えるよう、支援困難事例への助言や自立支援・重度化防止につながるケアマネジメントの支援を行います。また、介護支援専門員の資質向上のため、事例検討会や研修を実施し、専門員同士のネットワーク構築を目指して場を設定します。元気はつらつ教室ではオムロン等のシステムを活用し、アセスメントの質向上を図る。	自立支援・重度化防止に向けたケアマネジメント支援として研修を検討中だが、現時点では実施に至っていない。K3会議を通じて圏域ごとの研修内容を協議中。オムロンシステムは8月導入済だが、包括支援センターでの入力件数はまだ数件程度であり、今後の活用促進が課題である。	オムロンシステムには数件の入力という状況であるため、アセスメントの質向上のためにさらなる活用をしていただきたい。地域ケア会議で課題として挙がっているペット問題に対して研修会の開催等、地域包括支援センターとして取り組めるようにアプローチしており、評価できる。
	うち、他圏域との合同開催数			7	442			0	0						
	ネットワーク会議（圏域地域ケア会議以外の医療・関係機関等との意見交換の場など）	2		28	360	2	36	6	81						
	元気はつらつ利用者数（直持ち）	10			5		10		5						
	元気はつらつ利用者数（委託）				2		10		1						
ケア地域会議	個別地域ケア会議 延べ件数（実件数）	延べ3		4		3		1					約2年前から検討していた防災訓練について、小路町で机上訓練の実施が決まり、地域の福祉事業所やケアマネジャーと連携し、実効性のある訓練を目指す。訓練を通じて事業所と地域との距離を縮めることを目指す。	地域ケア会議で4年前に防災課題を抽出し、今年度やっと西小路で机上訓練を実施。11月には避難訓練を予定。高齢者の不安に寄り添い、他地域への展開を視野に広報協力を考えている。	かねてより準備していただいていた防災訓練について、地域の事業所等と連携しながら実施していただいた。訓練の実施をととして、事業所等が地域との連携を図りやすくなると思います。
	圏域地域ケア会議	1		2		1	10	1	19						
把握事業	基本チェックリスト実施件数		30		56		58		15				引き続き教室や訪問時に実施をする。	継続し実施していく。	引き続きお願いします。
普及介護予防事業	介護予防教室	6	60	17	221	6	60	1	10				関係機関が開催する介護予防をテーマにした教室等を地域住民に広く周知し、正しい介護予防の知識の普及啓発に協力する。年間の開催回数は減少するが、その分内容を精査し、質の高い実施を目指し、限られた機会を有効に活用する。	今年は、関係機関が開催する一体型の教室を地域の通いの場で周知し、チラシ配布とアンケートを実施しました。これまでの教室と一体型が重複しないよう内容を調整し、高齢者の介護予防に特化した内容を目指しています。開催回数は減少傾向ですが、今後は増加を図っていききたいと考えています。	一体型の教室を通いの場で周知したり、チラシ配布をしていただき周知に努めていただき、また、これまでの内容を重複しないよう内容の調整をしていただきました。今後、開催回数の増加も視野に入れつつ、引き続きお願いします。
	出前講座を含めた普及啓発			19	338			0	0						
	うち、他圏域との合同開催数							0	0						
地域支援介護予防活動	通いの場のへの支援			14	123	5	50	3	32				通いの場が少ない地域を中心に立ち上げや継続支援を行い、生活支援コーディネーターと連携してリーダーに助言します。高齢者保険事業と介護予防の調整を図り、体力測定など開催回数は減少しますが、継続的にサポートを実施します。	介護予防教室の開催にあたり、講座も実施しております。運動に飽きたとの声がある会場には100歳体操とは別のDVDを配布するなど多様な後方支援を行い、生活支援コーディネーターと共に自治会長への訪問も進めています。	講座を開催したり、体操のDVDを作成されたりと、創意工夫を凝らし様々な手段で支援を行っていただいた。また、自治会長への訪問等、地域との連携にもサポートいただきました。
	通いの場の専門職（リハ職等）派遣（派遣回数と通いの場の人数）	3	15	8	89	4	44	3	32						
	ボランティア等養成及び活動支援	1	10	0	0	1	10	1	19						
	うち、他圏域との合同開催数			0	0			0	0						
介護予防拠点の開設	地域包括支援センターが関わりのある通いの場の数と参加者数			17	163	18	168	18	154				昨年声かけを行った場所以外の地域や団体を重点的に訪問し、新たな通いの場への参加を積極的に呼びかけ、地域への広がりを図る。	本年6～7月頃に向島自治会長へ挨拶に伺い、これまでご案内していた百歳体操などの通いの場を実施できないか提案いたしました。その結果、秋口頃から検討を進めていきたいとお話をいただいております。	自治会長への訪問・挨拶を通して、新たな通いの場への参の促進にご尽力いただきました。引き続き調整よろしく願いいたします。
	年度内に立ち上げた通いの場数と参加者数	1	5	3	23	1	5	0	0						
認知症総合支援事業	認知症初期集中支援チーム対象者把握票実施件数		10		0		10		2				認知症ケアバスの配布や認知症に関する教室等を通じて、認知症の正しい理解を促進するための普及啓発活動を継続して実施する。引き続きチームオレンジまたはオレンジチームの活動を広げ、地域全体で認知症への理解を深め、支援ネットワークの強化を目指す。圏域内で新たに認知症カフェが立ち上がるように、法人が実施している認知症カフェがロールモデルの役割を果たせるように支援をしている。	周知活動をしなくても認知症カフェができないため法人に協力してもらいロールモデルとして、認知症カフェを展開し、認知症の方の参加も徐々に増えてきています。活動の場は皆さん楽しみにしております。今後も初期集中支援などの提案を継続し、ケースごとに検討を進めていきます。	ロールモデルとして、認知症カフェを展開していただき、認知症の方の参加も徐々に増え、皆さん楽しみにされているとのことと、効果が感じられています。また、法人の保育園も認知症カフェに来てくれており、多世代の交流の場にもなっている。初期集中支援などの提案を今後も継続しつつ、ケースごとの検討を進めいただければと思います。
	認知症初期集中支援チーム発動件数		2		1		2		1						
	認知症カフェ（立上及び開催支援）	1	5	12	128	6	64	5	53						
	認知症サポーターステップアップ講座	1	10	1	15	1	10	0	3						
	うち、他圏域等との合同開催数			0	0			0	0						
	ボランティア等養成及び活動支援	1	5	3	246	1	5	5	6						
	うち、他圏域との合同開催数			3	246			0	0						
任意事業	家族介護教室	1	5	10	145	5	72	3	14				家族が直面する課題に焦点を当て、学びの場を提供します。おむつ交換や体位交換などの負担軽減方法を学び、さらに、健康相談や交流会、情報提供を通じて家族介護者のQOL向上についてを目指します。	家族が直面する課題に焦点を当て、おむつ交換や体位交換などの負担軽減方法を学ぶ場を提供しています。講義だけでなく福祉用具の体験やシチュエーション学習を通して理解を深め、対象者のQOL向上を目指します。参加者の固定が目立つため、市役所窓口や広報を活用し周知に力を入れていきます。	家族がすぐに活用できるような内容として、おむつ交換や体位交換、産業CMを講師に招いた介護離職の防止等、家族の負担軽減方法を学ぶ場を提供していただきました。参加者の固定が目立つということですので、今後広く周知し、より多くの方に参加いただければと思います。
	出前講座等を含めた普及啓発（家族介護教室）			3	50			0	0						
	認知症見守り教室	2	10	10	136	5	68	1	8						
	出前講座等を含めた普及啓発（認知症見守り教室）			1	110			0	0						
	介護者家族交流会(立上及び開催支援)	1	5	7	40	3	20	3	14						
	介護者家族健康相談				1		1	0	0						
	認知症サポーター養成講座(一般)			3	58	1	10	0	0						
	うち、他圏域等との合同開催数			0	0			0	0						
	認知症サポーター養成講座(ジュニア)			0	0	1	10	1	4						
	うち、他圏域等との合同開催数	1	10	0	0			0	0						
対面相談	夜間・休日に対面して相談対応した件数（計画の記載は不要）			実人数	延人数			実人数	延人数	実人数	延人数				
				1	1			0	0						

●令和7年度当初の値

圏域内の居宅介護支援事業所数	11
主任介護支援専門員の人数	14
介護支援専門員の数	14

●令和7年度のケアプラン総数

基準月	ケアプラン作成数	直持ちプラン件数	委託プラン件数	委託率（％）	高齢者数／人口	高齢化率
令和7年3月	209	17	192	91.9%	6051人／22617人	26.7
令和8年3月					／	

事業	事業の内容	門真市目標値		前年度実績		活動計画		上半期実績(4月～8月分)		当該年度実績		自己評価	前年度の反省を踏まえた当該年度の目標	上半期の活動内容のまとめと課題 (4月～8月分)	上半期実績に対する市の講評
		回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数				
ケア包括的継続的業務	事例検討会・研修会（法定外研修含む）	2		6	147	4	80	1	22				元気はつらつについては、何度も利用者の方やリハ職同行訪問のPTの方の意見も聞きながら検討し、実施に向けて動くが事業所に連絡すると2か月待ちになることが何度があり、通所リハに切り替えた経験があった。事例検討や研修会は順調に行われていると思うので、このまま実施に向けて努めていく。	上半期は、圏域居宅事業所に対して、研修会を5月に1回実施。事例検討会・研修会は下半期3回（11月2件、3月1件法定外研修及び事例検討会・研修会）を開催予定。課題として、元気はつらつ利用者（委託）数があげられる。委託で繋がりがけたケースもあったが、提供事業所の送迎範囲外であったため利用ができなかった。	事例検討会や研修会は定期実施をしておられ計画的に実施しておられる。上半期には栄養士による研修会、下半期にはSTによる研修会等、今後の予定も立てられておりケアマネジャーへの支援も計画されていることが評価できます。課題としておられる元気はつらつ利用者の数についても、訪問〇を利用して人数の確保を検討しておられるため、期待をしています。
	うち、他圏域との合同開催数			0	0			1	22						
	ネットワーク会議（圏域地域ケア会議以外の医療・関係機関等との意見交換の場など）	2		4	55	4	40	7	160						
	元気はつらつ利用者数（直持ち）	10			0		5		2						
	元気はつらつ利用者数（委託）				0		5		0						
ケア地域会議	個別地域ケア会議 延べ件数（案件数）	延べ3		6		3		4					個別地域ケア会議においては、都度上がってきた案件に素早く対応していく。圏域ケア会議は初めて担当圏域の医師に参加してもらうことができたので今後も参加をお願いしていきたいと思う。	圏域ケア会議は下半期10～11月に開催予定。課題は特になし。	地域課題の抽出を行い、継続して第二圏域での課題共有や解決に向けて、今後も取り組みをさせていただくようお願いしたい。
	圏域地域ケア会議	1		1		1	10	0	0						
把握事業	基本チェックリスト実施件数		30		48		40		14				基本チェックリストは予防教室やイベントの機会に実施し、その後のフォローをキチンと行っていく。	初回訪問時やイベントの際に実施。状態をみて、予防教室等の情報提供を実施。課題は特になし。	今後もチェックリスト等の実施をお願いし、認知症初期状況と一緒に見て頂けたらと思います。
普及啓発予防策	介護予防教室	6	60	29	492	14	246	12	232				予防教室は順調に行われており、次年度は偶数月に音楽療法教室が増えることになっている。さらに活動につなげていくように努めていく。	予防教室は順調に行われている。下半期も継続。課題は特になし。	介護予防教室に力が入っていることが同われ、1回の教室で20～30名が参加されている。今後は音楽療法教室も増えるという事なので、さらに参加されることを期待しています。
	出前講座を含めた普及啓発			6	73			6	101						
	うち、他圏域との合同開催数			3	31			1	18						
地域支援事業活動	通いの場のへの支援			4	88	2	44	5	5				長く続いていた1つの教室が参加者が減ってしまい、通いの場でなく自由に集まれる時にと形を変えていくことになった。段々と主になって動いてくれる人が減ってきてしまうのではないかと危惧される状態である。何とかこれ以上減ることのないようにアンテナを張っていききたい。	いき百代表に対して補助金の情報提供。令和8年1～3月中に「通いの場」への専門職派遣依頼あり（ほかから）。課題は「ボランティア等養成及び活動支援」担い手がいない。	様々な場面において、ボランティアをすること自体が自身の介護予防につながることを告知・啓発しているが、ボランティアの担い手がいない状況であり、市としても課題と思います。現状ある通いの場を継続していけるように今後も支援をお願いします。
	通いの場への専門職（リハ職等）派遣（派遣回数と通いの場の人数）	3	15	3	50	3	15	0	0						
	ボランティア等養成及び活動支援	1	10	0	0	1	10	0	0						
	うち、他圏域との合同開催数			0	0			0	0						
介護予防拠点の	地域包括支援センターが関わりのある通いの場の数と参加者数			6	109	7	114	5	102				通いの場がない地域での立ち上げに向けて支援員の方と協力をしながら行っていきたい。	速見小学校区の寿町周辺にいき百がない。自治会等への声掛け行っても現状、担い手がいない。通いの場がない地域での立ち上げに向けてSCの方と協力をしながら行っている。	SCを含め民生委員にも協力を得て、地域への声かけの方法など検討をお願いします。また、イズミやで通いの場や介護予防教室を開催しているが、イズミや商店に伴い開催場所の確保等も今後検討が必要と思われます。
	年度内に立ち上げた通いの場数と参加者数	1	5	1	25	1	5	0	0						
認知症総合支援事業	認知症初期集中支援チーム対象者把握票実施件数		10		0		10		4				次年度は自治会長に連絡を取り、地域の方との連携や交流を図ることににより、様々な活動に繋げていけるよう努めていきたい。できれば、カフェも行いたいと思っている。地域の方との接点も大切にしながら進めていく。	8/1日に医療職が入職。認知症初期集中支援チーム対象者把握票実施件数4件。予防教室出前講座や生き百などで、自治会、民生委員、地域の方に認知症カフェ立上等の提案を行っているが、開催には繋がらず。現状、担い手がいない。11/21日に門真第3地域包括と共に認知症ステップアップ講座を開催予定。	民生委員の改選が11月頃に予定されているため、その際に新たな民生委員から新たな関係を築き、支援に参加してもらええる参加者を探していただけたらと思います。また、圏域内での活動スポットも確保して、認知カフェや講座が利用できる箇所として、日頃より運営推進会議等で顔の見える関係であるG4等に声掛けをいただき、協力いただけるように動めていただければと思います。
	認知症初期集中支援チーム発動件数		2		0		2		0						
	認知症カフェ（立上及び開催支援）	1	5	0	0	1	5	0	0						
	認知症サポーターステップアップ講座	1	10	1	7	1	10	0	0						
	うち、他圏域等との合同開催数			1	7			0	0						
	ボランティア等養成及び活動支援	1	5	0	0	1	5	3	97						
	うち、他圏域との合同開催数			0	0			0	0						
任意事業	家族介護教室	1	5	3	20	2	15	2	18				認知症サポーター養成講座や認知症ステップアップ講座は行えているが、認知症ステップアップ講座ジュニアは、どこの包括でも今のところは実施は困難である。何とか行うことができるよう話し合っていきたい。また、家族介護教室も回数を増やしていきたいと考えている。	上半期は高齢福祉課の協力もあり、門真小学校にて認知症ジュニアサポーター養成講座を開催できた。他、10月に認知症見守り講座開催予定。10月31日に認知症サポーター養成講座開催予定。介護者家族交流会に關して、今後、他包括の活動内容の助言を頂きながら実施に繋げていきたい。	ジュニアサポーターの実施ありがとうございます。家族介護者交流会は家族介護教室からの流れで対象者を見つけて頂いたり、認知症サポーター養成講座などに参加して貰えた人を講座終了後に茶話会的な感覚から実施に繋げて頂けたらと思っています。
	出前講座等を含めた普及啓発（家族介護教室）			0	0			0	0						
	認知症見守り教室	2	10	1	6	2	10	0	0						
	出前講座等を含めた普及啓発（認知症見守り教室）			2	132			0	0						
	介護者家族交流会(立上及び開催支援)	1	5	0	0	1	5	0	0						
	介護者家族健康相談				0		0								
	認知症サポーター養成講座(一般)			3	21	1	10	0	0						
	うち、他圏域等との合同開催数			1	7			0	0						
	認知症サポーター養成講座(ジュニア)	1	10	0	0	1	10	1	60						
	うち、他圏域等との合同開催数			0	0			0	0						
対面相談	夜間・休日に対面して相談対応した件数（計画の記載は不要）			実人数	延人数			実人数	延人数	実人数	延人数				
				0	0			1	1						

●令和7年度当初の値

圏域内の居宅介護支援事業所数	10
主任介護支援専門員の人数	20
介護支援専門員の数	15

●令和7年度のケアプラン総数

基準月	ケアプラン作成数	直持ちプラン件数	委託プラン件数	委託率（％）	高齢者数／人口	高齢化率
令和7年3月	237	13	224	94.5%	6560人／21286人	30.8
令和8年3月					／	

事業	事業の内容	門真市目標値		前年度実績		活動計画		上半期実績(4月～8月分)		当該年度実績		自己評価	前年度の反省を踏まえた当該年度の目標	上半期の活動内容のまとめと課題 (4月～8月分)	上半期実績に対する市の講評
		回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数				
ケアマネシスの継続的業務	事例検討会・研修会（法定外研修含む）	2		4	182	2	80	1	21				リハビリ専門職による指導が受けられ、運動だけではなく元気な体を作るための栄養の摂り方や、口腔ケアについても学べる。元気はつらつ教室の意義である、身体機能の維持向上が期待できることを、より丁寧に分かりやすく情報提供していきたい。	元気はつらつ教室の概要とリハビリ専門職の役割、セラピストの自立支援に向けた3つの思考過程（医学的リスク・本質的課題の抽出と課題の所在・改善の可能性）について事例検討会を開催した。その人の力を引き出し、取り戻すことが支援のゴールであるという考え方を啓得した。また、下半期にはネットワーク会議を予定している。	事例検討会・研修会は毎回内容を工夫して実施されていると思います。元気はつらつ教室のケースには直接ケースが現在0件ではありますが、今後チャンスがあればこ担当いただければと思います。
	うち、他圏域との合同開催数			0	0			0	0						
	ネットワーク会議（圏域地域ケア会議以外の医療・関係機関等との意見交換の場など）	2		4	58	2	30	3	38						
	元気はつらつ利用者数（直持ち）	10			2		2		0						
	元気はつらつ利用者数（委託）				6		5		1						
ケア地域会議	個別地域ケア会議 延べ件数（案件数）	延べ3		延べ6（実6）		延べ3		0					昨年度に引き続き、地域ケア会議を開き課題を抽出し、各関係機関（地域住民・金融機関・商店・医療機関など）と共に取り組んでいく。	地域ケア会議の開催にあたり、制約が多く課題に対して問題解決に至らないといった声を耳にした。開催することが目的ではなく、個人情報の取扱いなどに配慮しながら明確な目的を示した上での運営を心がけたい。	全員の意見をまとめて、少しでも課題解決に近づけるのは難しいことだと思います。全ての問題解決に至らないですが、問題意識の醸成なども含めて実施いただければと思います。
	圏域地域ケア会議	1		1	36	1	30	0	0						
把握事業	基本チェックリスト実施件数		30		56		30		13				基本チェックリストについては、これからも必要な方が、適切な支援に繋がらないという状況を回避するために活用したい。	基本チェックリストを実施することにより、自身の状態把握のツールとして、理解を深めていただけた。	例年通り活用いただいていると思います。
普及啓発事業	介護予防教室	6	60	14	279	6	60	7	197				介護予防教室では、医療面を含めて、各関係機関と連携し、幅広いテーマを取り上げる。地域住民が自立した日常生活が送れるよう生活の質を高め、住み慣れた地域での社会参加を促したいと考える。	運動効果を最大化する方法は継続すること、習慣に至るまでの期間は通常2ヵ月は必要である。具体的な目標を持ちできることから取り組んで評価することがポイントで、毎食後の歯磨きのようになれば習慣化したと言ってよい。さらには、一人で取り組むよりも、社会とつながりを持つことで死亡率が減少することも証明されている。非常に質の高い講義内容で参加者の反響が大きかった。	還付金詐欺が多いこと等に考慮して、詐欺対策の講座を企画されるなど、健康以外の面でも内容を検討して開催いただいている。
	出前講座を含めた普及啓発			3	90			5	111						
	うち、他圏域との合同開催数			－	－			0	0						
地域支援事業	通いの場のへの支援			59	222	36	129	10	87				通いの場の内容に関しては、新たなチャレンジができればと考えているが、集中して何かひとつのものを作り上げるをコンセプトに多様性を高め、これから2層のコーディネーターや自治会などと協力しながら、ボランティア等養成及び活動支援を継続したい。	新たな通いの場の開発として、介護予防の重要性や通いの場の必要性、どのような効果が期待できるのか、地域課題をまとめ住民からの声を届けてはみる、なかなか理解が得られない状況である。	通いの場は地域住民の理解が得られにくい場面もあるなかで、あらゆる方面に配慮して実施いただいていると思います。地域への理解の浸透など、市でも努めていなければならないと思っています。
	通いの場への専門職（リハ職等）派遣（派遣回数と通いの場の人数）	3	15	2	23	3	25	1	14						
	ボランティア等養成及び活動支援	1	10	11	180	10	150	6	79						
	うち、他圏域との合同開催数			0	0			0	0						
介護予防拠点の開発	地域包括支援センターが関わりのある通いの場の数と参加者数			18	258	19	266	17	197				今年度こそは、新たな通いの場づくりに乗り出し展開していければと思っている。同時に、立ち上げたいという声があがれば、ニーズに応えてサポートに回りたい。	引き続き、2層のコーディネーターと協力して通いの場の数を増やしていきたい。	2層コーディネーターとは連携して動いていただいていると思います。
	年度内に立ち上げた通いの場数と参加者数	1	5	0	0	1	8	0	0						
認知症総合支援事業	認知症初期集中支援チーム対象者把握実施件数		10	－	－	－	8		3				認知症初期集中支援チームの発動にまでは行かずとも、対象者把握実績データを材料にスムーズに支援につなぐことが第一歩と考える。前年度に引き続き、認知症サポーター養成講座を他圏域との合同開催が定着すれば、よりクオリティーが高いものに仕上がると思っている。	対象者把握実施件数が3件であった。この実績データを積み重ね支援体制の強化に努めたい。11月には他圏域と合同で認知症サポーターステップアップ講座の開催を予定している。認知症カフェと同様に、これからもこの活動を継続していきたいと考えている。	今年度も第2包括と合同で実施を予定されています。場所の確保難しいですが、開催場所を第2圏域の場所で開催できればいいと思います。
	認知症初期集中支援チーム発動件数		2	0	0		1		0						
	認知症カフェ（立上及び開催支援）	1	5	12	34	12	30	4	9						
	認知症サポーターステップアップ講座	1	10	1	7	1	7	0	0						
	うち、他圏域等との合同開催数			1	7			0	0						
	ボランティア等養成及び活動支援	1	5	12	25	12	25	5	94						
	うち、他圏域との合同開催数			0	0			0	0						
任意事業	家族介護教室	1	5	1	17	1	15	1	12				任意事業では、介護に関する知識を高め、介護する人介護される人、双方の負担を軽減する。また、介護者同志が交流を図ることで、ひとりで抱え込むことがなくなる。これからも、このような地道な活動を続けることで地域の課題に向き合っていきたい。	家族介護教室では主菜は満足感を得られるように濃い味付けて、副菜は薄味で料理するとよいとアドバイスを受けた。参加者から「それなら手軽に取り入れられる」「実生活でも活用できる」といった声を聞くことができた。認知症サポーター養成講座（シェア）については課題が多く開催には至っていない。	家族介護教室の栄養に関する講座は、実際に食事を食べてもらうことで、住民の意識向上につながったと思います。下半期の認知症見守り教室では、認知症の方を警察が保護した時に、警察や包括等がどのような動きを取り、住民の皆さんにはどのようなことを求めるのか等を学ぶ内容を予定しており、参加者の興味を引くテーマで教室の開催を今後も引き続きお願いしたい。
	出前講座等を含めた普及啓発（家族介護教室）			0	0			0	0						
	認知症見守り教室	2	10	1	15	1	15	0	0						
	出前講座等を含めた普及啓発（認知症見守り教室）			1	110			0	0						
	介護者家族交流会(立上及び開催支援)	1	5	10	76	10	60	5	36						
	介護者家族健康相談			0	0		0		0						
	認知症サポーター養成講座(一般)	1	10	1	7	1	7	0	0						
	うち、他圏域等との合同開催数			1	7			0	0						
	認知症サポーター養成講座(シェア)			0	0	1	10	0	0						
	うち、他圏域等との合同開催数			0	0			0	0						
対面給の談	夜間・休日に対面して相談対応した件数（計画の記載は不要）			実人数	延人数			実人数	延人数	実人数	延人数				
				0	0			0	0						

●令和7年度当初の値

圏域内の居宅介護支援事業所数	18
主任介護支援専門員の人数	27
介護支援専門員の数	56

●令和7年度のケアプラン総数

基準月	ケアプラン作成数	直持ちプラン件数	委託プラン件数	委託率（％）	高齢者数／人口	高齢化率
令和7年3月	216	31	185	85.6%	7213人／25292人	28.5
令和8年3月					／	

事業	事業の内容	門真市目標値		前年度実績		活動計画		上半期実績(4月～8月分)		当該年度実績		自己評価	前年度の反省を踏まえた当該年度の目標	上半期の活動内容のまとめと課題(4月～8月分)	上半期実績に対する市の講評
		回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数				
ケアマネ包括的継続的業務	事例検討会・研修会（法定外研修含む）	2		2	41	2	40	1	22				リハ職派遣や元気はつらつ教室の活用が進まない原因として、実際に体験し理解する機会がないためと思われる、前年度の研修や事例検討を踏まえ、今年度も委託を通じてリハ職派遣や元気はつらつ教室を活用する機会をもっと頂けるようにケアマネジャーの後方支援を行う。 また、ケアマネジャーが困難と感じる内容を踏まえた事例検討を開催する。	上半期リハ職派遣7件中3件とはつらつ教室は5件中2件を委託先ケアマネジャーと進めた。事業活用の体験から理解が深まるよう取り組み、下半期にはさらに件数が増えるようケアマネジャーへの提案と後方支援を行う。 またケアマネジャーが困難と感じる金銭管理について、地域包括の事例をもとに事例検討・研修会を開催し、下半期にはさらに深めた内容の開催を企画し、ケアマネジャーのスキルアップにつながるよう取り組む。	ケアマネジャーに対して件案する形で丁寧にリハ職同行訪問や元気はつらつ教室を推進していただいている。その取り組みで事業や介護予防ケアマネジメントの理解を深めてもらっています。 また、事例検討会や研修会を計画的に開催し、ケアマネジャーとのネットワーク構築や支援の確に行っていたことなどが評価できます。 下半期には、金銭管理において社協の日常生活自立支援事業や成年後見制度等の利用できる制度を取り上げた研修会を予定されており、ケアマネジャーのさらなるマネジメントの向上につながる研修会の開催を引き続きお願いいたします。
	うち、他圏域との合同開催数			0	0			0	0						
	ネットワーク会議（圏域地域ケア会議以外の医療・関係機関等との意見交換の場など）	2		7	109	10	120	3	16						
	元気はつらつ利用者数（直持ち）	10			1		2		3						
	元気はつらつ利用者数（委託）				6		8		2						
ケア地域会議	個別地域ケア会議 延べ件数（実件数）	延べ3		4		5		2					新たな課題抽出のためにも、圏域地域ケア会議の参加者を見直し開催する。個別会議については、支援者への個々の連携で支援が進むことが多いが、支援者同士の連携作りを意識し、開催判断を早期に行う。	地域の意見から防災について課題抽出できるようDIG（災害図上訓練）を企画している。個別会議では早期に開催判断はしたが、課題や支援者が多岐にわたり開催時期が難しく引き続き早期の判断と開催準備に努める。	今後予定されている防災についての圏域ケア会議は、白ころ意識しない内容のため有意義なものになると思います。 個別ケア会議についても、必要に応じ開催し、関係機関や地域の方に協力してもらいケースの対応を行っていただいている。個別事例から把握した課題を積み重ねを引き続き取り組んでいきたい。
	圏域地域ケア会議	1		1		1	10	0	0						
把握事業	基本チェックリスト実施件数		30		35		40		34				高齢者自身が昨年の結果と比較しフレイル予防等のきっかけに出来るよう継続した啓発を行なう。	四つ葉教室や通いの場で実施し、高齢者自身の介護予防意識が高まるよう努め、下半期も啓発を継続する。	
普及介護予防事業	介護予防教室	6	60	10	262	8	160	4	109				毎月定例の四つ葉教室は、様々な通いの場や関係機関に開催周知を行い参加者の増加など活性化を図る。地域の集まりの場などを把握しこまめに足を運び介護予防についての周知を図る。	四つ葉教室の年間チラシを関係機関や公的機関、通いの場、郵便局などに設置していただき、総合相談などでも個別に周知している。今年度に入って参加し始めた方など25名前後の参加があり、引き続き周知していく。老人会やまかどデイハウスなどにも出向き教室等の開催を広げていく。	定期的かつ継続的に実施されていることもあり、地域の方が大人等を連れて参加するなど、新しい参加者が増えていることは良いと思います。 今後も地域の方からの紹介などで、普段教室に参加しないような方が増えることを期待します。
	出前講座を含めた普及啓発			10	972			1	6						
	うち、他圏域との合同開催数			0	0			0	0						
地域介護予防事業活動	通いの場のへの支援			7	66	8	70	1	12				市民が自主的に立ち上げを希望されるよう、通いの場が立ち上がっていない四宮校区を中心に地域の集まりなどにこまめにアウト、白ころからの啓発などいゆる種まきを行っていく。活動中の通いの場にはリハビリ職派遣など様々な提案を行い活性化を図る。	半年ごとの体力測定が必須でなくなったことから、希望グループのみへの実施となっている。通いの場が活性化していくよう、認知症サポーター養成講座やフォローアップ講座、基本チェックリストと介護予防説明などを計画的に行っている。	体力測定が必須でなくなったことで各通いの場への関わり方が変わりますので、認知サポの実施や生活支援コーディネーターとの連携など必要に応じて支援をお願いしたい。また、介護予防ボランティアをテーマとした介護予防教室の開催を今後検討されているため、ボランティア活動につながるよう、期待をしております。
	通いの場への専門職（リハ職等）派遣（派遣回数と通いの場の人数）	3	15	23	221	11	218	2	23						
	ボランティア等養成及び活動支援	1	10	0	0	1	10	0	0						
	うち、他圏域との合同開催数			6	281			0	0						
介護予防拠点の開発	地域包括支援センターが関わりのある通いの場の数と参加者数			16	213	17	220	8	93				いきいき100歳体操以外の集まりの場の把握を行い、出前講座や認知症サポーター養成講座など会の活性化や連携強化のための関わりを増やしていく。	通いの場が少ない四宮校区へも出前講座などもしているが、広い圏域でもあり空白地域に含めた関りがまだ行っていない。他地域では生活支援コーディネーターからの声掛け等とも連携し1か所立ち上げが出来た。	通いの場がない四宮校区へのアプローチに向けて、一度SCも含め、資源（利用できる場所など）の洗い出しや地域への関わりの方などを検討を行うことも検討していただきたい。
	年度内に立ち上げた通いの場数と参加者数	1	5	2	20	1	7	1	23						
認知症総合支援事業	認知症初期集中支援チーム対象者把握票実施件数		10		0		10		4				総合相談の早い段階でチーム対象者が検討しいつでも発動できるよう全職員に研修(伝達)を行う。 認知症サポーター養成とステップアップを計画的に開催できるよう複数年度での計画する。他包括を参考にしてステップアップ内容を検討する。第5包括との共同開催認知症見守り教室から認知症カフェについても検討する。	初期集中支援チーム発動について総合相談で関わった早期に検討している。総合相談で支援助言する中で体制が整うことが多く発動には至っていない。 ステップアップ講座を計画的に行っているため、講座内容の検討準備を行っている。 認知症見守り教室からカフェへの展開については参加者の意向を聞きながら検討する。	初期集中支援チームの対象となるかの検討を早い段階で行っていることは助かります。 発動しなかった場合、その理由の積み重ねを行って、チームの在り方の検討を行なうため、協力いただきたい。 見守り教室からカフェへの展開は、地域の方の意識を「イベントに参加する」から「主体的に活動に参加する」に変える必要があるため、工夫が必要だと思います。
	認知症初期集中支援チーム発動件数		2		0		2		0						
	認知症カフェ（立上及び開催支援）	1	5	0	0	1	5	0	0						
	認知症サポーターステップアップ講座	1	10	1	9	1	10	0	0						
	うち、他圏域等との合同開催数			0	0			0	0						
	ボランティア等養成及び活動支援	1	5	6	288	6	250	0	0						
	うち、他圏域との合同開催数			0	0			0	0						
任意事業	家族介護教室	1	5	2	58	1	30	1	34				ナーシングホーム智島を活用して、第5包括との境界地区に集いの場が少ないという地域課題を解消し、見守りのある地域づくりに取り組む。要介護認定後も支援に直ぐにつながるいない場合等の介護者家族の健康や経済的な相談にも対応していく。 対象者を再検討しジュニアへの認知症サポーター養成講座の開催に取り組む。	認知症見守り教室を第5包括と共同開催しているが、参加者に及びあり定旨には開催回数を重ねる必要がある。 認知症サポーター養成講座は通いの場の活性化を目的として計画的に開催している。こども園からの依頼で5歳児を対象に開催した。様々な年代に開催できる工夫をしていく必要がある。	こども園からの依頼で園児対象に認知症サポーター養成講座の実施にご協力いただきました助かりました。 今後、定期的に実施できるように聞いていたため、引き続き協力をお願いします。 他圏域で小学校単位では別に、地域の小学生向けに認知サポを実施しているため、様々な年代に向けた認知サポ実施に向けて方法や内容などを検討していただきたい。
	出前講座等を含めた普及啓発（家族介護教室）			0	0			0	0						
	認知症見守り教室	2	10	4	85	2	50	1	5						
	出前講座等を含めた普及啓発（認知症見守り教室）			2	300			1	15						
	介護者家族交流会(立上及び開催支援)	1	5	0	0	1	5	0	0						
	介護者家族健康相談				4		3		1						
	認知症サポーター養成講座(一般)			6	105	3	60	3	37						
	うち、他圏域等との合同開催数			0	0			0	0						
	認知症サポーター養成講座(ジュニア)			0	0	1	10	1	38						
	うち、他圏域等との合同開催数	1	10	0	0			0	0						
対面相談	夜間・休日に対面して相談対応した件数（計画の記載は不要）			実人数	延人数			実人数	延人数	実人数	延人数				
				1	1			0	0						

●令和7年度当初の値		●令和7年度のケアプラン総数					
圏域内の居宅介護支援事業所数	16	基準月	ケアプラン作成数	直持ちプラン件数	委託プラン件数	委託率（％）	高齢者数／人口
主任介護支援専門員の人数	23	令和7年3月	341	29	312	91.5%	9213人／29641人
介護支援専門員の数	40	令和8年3月					／

事業	事業の内容	門真市目標値		前年度実績		活動計画		上半期実績(4月～8月分)		当該年度実績		自己評価	前年度の反省を踏まえた当該年度の目標	上半期の活動内容のまとめと課題 (4月～8月分)	上半期実績に対する市の講評
		回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数				
ケアマネシ ステム的 継続的 業務	事例検討会・研修会 (法定外研修含む)	2		3	128	3	100	1	22				・居宅介護支援事業所に地域課題（認知症、複合的課題を抱える世帯の増加等）に即した事例の検討会や難病疾患等について勉強会を開催し介護支援専門員の抱える課題の解決を目指す。ネットワーク会議を開催し介護支援専門員同士のつながり強化と他機関とのネットワークを構築していく。 ・リハビリ専門職と協働し高齢者の状態に即したケアマネジメントが実施できるようにし、高齢者が元気を取り戻す支援を行う。	・居宅介護支援事業所との勉強会はバーキンソン病罹患者の食と栄養についての、引き続き地域の居宅介護支援事業所と連携し、ネットワーク作りなどに繋げていきたい。 ・はつらつについては卒業しセルフケアへと移行できた方は1名、他サービス利用を継続している方もいる。委託ケアプランは増えたがやむなく中断したケースもあり、利用者の状態像、卒業後の支援も含めて課題は多い。	・ケアマネジャーのニーズにあった勉強会の実施を行われたことは非常に評価でき、引き続き地域の居宅介護支援事業所と連携し、ネットワーク作りなどに繋げていきたい。 ・はつらつ教室に関して、受け皿の少なさが大きな課題になっており、利用者に合うように案内できない状況であることを保険者としても把握している。訪問型も9月から開始したため、ケアマネジャーへの周知啓発を含め、ご協力いただきたい。
	うち、他圏域との合同開催数			1	30			1	22						
	ネットワーク会議（圏域地域ケア会議以外の医療・関係機関等との意見交換の場など）	2	10	5	42	2	45	2	21						
	元気はつらつ利用者数（直持ち）				10		8		2						
	元気はつらつ利用者数（委託）				0		4		3						
ケア地 域 議	個別地域ケア会議 延べ件数 (実件数)	延べ3		3		3		3					個別地域ケア会議は多職種、事例によっては住民の参加により地域で解決する問題として取り組む。圏域ケア会議は地域にアウトリーチし地域について住民と共に考える機会とする。	個別地域ケア会議はハラスメントの事例、精神疾患のある方（保護観察・入院中）の在宅復帰を目指し検討している。圏域ケア会議は後期に開催予定である。	下半期には、地域に出向いての圏域ケア会議を実施し、住民と地域課題の共有などを行っていただくことを期待している。
	圏域地域ケア会議	1		2		1		0	0						
把 握 事	基本チェックリスト実施件数		30		39		40		5				相談業務、教室開催時チェックリストを活用し必要時の介入やフレイル予防の啓発を行う。	通いの場等で実施しフィードバックを丁寧に行っている。後期も通いの場等で積極的に実施する。	上半期は活動計画より少ない人数となっているため、下半期に実施をお願いしたい。
普 及 介 護 予 防 業	介護予防教室	6	60	13	223	14	240	6	94				介護予防教室で認知症高齢者の増加という課題を踏まえ認知症の早期発見とMCIについて啓発を行い、地域の課題や住民のニーズに沿った内容も実施する。開催場所を増やすことや参加者は自治会員のみという垣根を作らず多くの参加を募れるよう自治会関係者に理解を求めていく。	MCIについて理解と啓発に取り組み初めて介護予防教室を開催した。認知機能、手指の運動機能の得手不得手を知り、普段の生活の中で取り組めること等、予防が重要であることも伝えられたと思われる。牧リハ病院のPTによるテレビ体操を基にした運動指導を一集会所で開催している。 新たな開催場所については、自治会館の設備、環境等調査と圏域内マンション等集合住宅にも集会所や自治会の有無等を調査していく。	MCIという言葉が少しづつ浸透し、参加者も興味を持って教室に参加いただけているので、引き続き周知・啓発をお願いしたい。 また、牧リハビリテーション病院が地域貢献としてPT2名を毎月1回通いの場に派遣してくれており、通いの場の取組内容に関するモチベーションが維持できている。今後は可能な範囲でいくつかの通いの場での実施ができれば、牧リハビリテーション病院と検討いただきたい。
	出前講座を含めた普及啓発			2	36			3	44						
	うち、他圏域との合同開催数			0	0			0	0						
地 域 支 援 事 業 防 活 動	通いの場のへの支援			57	538	50	500	16	243				各通いの場にはリハビリ専門職の関与で体力測定を実施し参加者の健康意識を高め、2階、3階コーディネーターと協力し、レクリエーションの提供等で通いの場継続のための支援を行う。	各通いの場により均等に関われるようリハビリ専門職の参加で体力測定を計画的に実施している。また2、3階コーディネーターの協力により、体験後に音楽レクリエーションを提供し、要望のあった通いの場には新たな体操の情報提供を行っている。	地域包括支援センターが購入した体操のDVDを地域の通いの場に貸し出ししを行っており、通いの場の体操へのモチベーションの維持につなげている。2・3階コーディネーターとの連携もしっかりとれており、この調子で活動をお願いしたい。
	通いの場への専門職（リハ職等）派遣（派遣回数と通いの場の人数）	3	15	8	91	8	95	3	43						
	ボランティア等養成及び活動支援	1	10	1	7	1	10	1	20						
	うち、他圏域との合同開催数			0	0			0	0						
介 護 予 防 拠 点 の 開 発	地域包括支援センターが関わりのある通いの場の数と参加者数			17	183	18	190	19	202				新たに通いの場の開設に向けて関わり未開拓の自治会館の設備等調査を行うとともに、薬局等の圏域内店舗、介護保険等サービス事業所にも働きかけ、新たな拠点づくりに取り組む。	4月、通いの場が立ち上がった。介護サービス利用の相談者がリーダーとしての役割を担い継続できている。後期も新たな場所では住民の方々へ包括の周知となるよう、介護予防教室等の単発の講座の開催から始める。	地域包括支援センターに介護サービスの相談をしていた方が、新たに通いの場を立ち上げて、リーダーとして地域の役割を持って活躍されている。介護サービスの利用（歩行器）だけにとまらず、通いの場の立ち上げまでにつなげており、相談者の能力の見極めや動機付け支援をしっかりと行われた結果であると思います。
	年度内に立ち上げた通いの場数と参加者数	1	5	2	24	1	15	1	12						
認 知 症 綜 合 支 援 事 業	認知症初期集中支援チーム対象者把握票実施件数		10		0		10		2				・ステッパアップ講座は9月に開催予定である。 ・認知症カフェは隔月開催し、カフェの準備段階から住民ボランティアに参加していただくようにした。スタッフの一員として活動したいという声も上がるようになった。 ・認知症カフェの開催支援を行い、住民が担い手として活動できるよう支援を続ける。	・ステッパアップ講座は9月に開催予定である。 ・認知症カフェは隔月開催し、カフェの準備段階から住民ボランティアに参加していただくようにした。スタッフの一員として活動したいという声も上がるようになった。 ・認知症の入院により医療につながる等、発動には至っていないが、引き続き対象者把握票を実施いただき、該当するケースの場合にはチームの発動をお願いしたい。	
	認知症初期集中支援チーム発動件数		2		0		2		0						
	認知症カフェ（立上及び開催支援）	1	5	6	133	6	150	2	55						
	認知症サポーターステッパアップ講座	1	10	1	11	1	20	0	0						
	うち、他圏域等との合同開催数			0	0			0	0						
	ボランティア等養成及び活動支援	1	5	50	206	50	200	24	76						
	うち、他圏域との合同開催数			0	0			0	0						
任 意 事 業	家族介護教室	1	5	1	21	1	25	1	15				・れんかファームは認知症当事者とその家族、地域住民とかゆ作業を通して交わり、認知症の理解と介護する家族の支援や地域の見守り体制を構築するため継続する。 ・第4・5包括合同の見守り教室、家族介護教室は、介護する家族の精神的、技術的支援となる内容とし、また介護者家族の会の立ち上げに向けても支援を行う。	・れんかファーム、サロンは総合相談を受けた方に情報提供しており、畑の作業で役割を見出し活動性が高まる等、好事例もあった。宿題カフェ参加児童にサポーター養成講座を検討している。 ・見守り教室合同開催では認知症と深く関わる「聞こえ」についての勉強会、特養等施設の勉強会と特養施設の見学を実施している。	認知症サポーター（ジュニア）は圏域内の宿題カフェに打診する予定で、下半期での開催を期待している。介護者家族交流会に関して、ピアカウンセリングが重要であるという認識されているため、介護経験者や現に介護している家族のマッチングをされているため、今後は交流会の立ち上げにつなげていただきたい。
	出前講座等を含めた普及啓発（家族介護教室）			0	0			0	0						
	認知症見守り教室	2	10	2	43	3	60	1	5						
	出前講座等を含めた普及啓発（認知症見守り教室）			0	0			0	0						
	介護者家族交流会（立上及び開催支援）	1	5	0	0	1	5	0	0						
	介護者家族健康相談				0		1								
	認知症サポーター養成講座（一般）			2	22	1	10	1	11						
	うち、他圏域等との合同開催数			0	0			0	0						
	認知症サポーター養成講座（ジュニア）	1	10	0	0	1	10	0	0						
	うち、他圏域等との合同開催数			0	0			0	0						
対 面 日 の 談	夜間・休日に対面して相談対応した件数（計画の記載は不要）			実人数	延人数			実人数	延人数	実人数	延人数				
				5	5			0	0						